

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和3年度第2回相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和3年11月9日(火) 午後6時から8時		
開催場所		相模原市役所 第2別館3階 第3委員会室		
出席者	委員	14人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	8人(こども・若者未来局長ほか7人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	6人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 子ども・子育て支援事業計画の点検・評価の方法について 4 その他 5 閉 会		

議 事 の 要 旨

1 開 会

2 あいさつ（こども・若者未来局長）

3 議 題

(1) 子ども・子育て支援事業計画の点検・評価の方法について

(片山会長) 今回の議題については、前回の会議で指標や評価に関して課題があるという意見が出された経過がある。それを踏まえ、資料1-2では令和2年度までの議論の経過ということでお示しいただいた。これを具体的にどう扱うのか、ご意見を伺いたいと思う。

また、資料1-4裏面にあるとおり、実施状況の評価欄と総括欄を今回追加させていただき、委員の皆様のご意見を含めた上で、事業課へフィードバックさせていただく形となる。支援事業計画18ページに「基本目標」が10項目あり、19ページに「施策の方向」ということで小項目になって掲載されている。さらに計画の中では細分化された事業が行われており、それらが現在の相模原市の子どもを取り巻く施策の内容となっている。「施策の方向」一つ一つに対して実施状況の総括という項目を立て、検証していくことになるということが良いか。総括の文言に関しては、どの時点で提示される予定なのか。

(事務局) 今年度の場合、ここまでの議論が遅れてしまったということがあるので、2月頃を予定している。また、総括には委員の皆様のご意見等を反映させていただきたいと考えている。

(片山会長) 委員の皆様のそれぞれの立場の中で、子ども・子育て支援事業に関して気づかれたことなどを、総括という形で評価をしていくということが事務局の説明である。

(永保委員) 前回の会議の際にも、具体的な事業ごとの成果指標が現状維持なのか、改善なのかという評価が、必ずしもマッチしていないまま継続するのか、という意見を出させていただいたが、点検時に行政から事業について実施できたのか、できなかったのか、できなかった理由などが示され、それらについて委員の意見が反映されやすくなったという理解でよいか。

(事務局) 総括に委員からのご意見等を反映させていただき、各事業課に戻させていただく。そこから事業課で改めて検討させていただくという流れになる。

(永保委員) こういう類のものを変更するには、多大なエネルギーが必要だと思う。努力に感謝する。

一方この議論については、今年度から委員になられた方は恐らく意味がわからないと思うのだが、例えば計画冊子の86、87ページを見ていただくと、基本目標1を図る成果指標が1つしかない。その成果指標には「自分のよいところがあると思う児童生徒の割合」というのがあり、この数値が目標値として示されている。さらに、平成30年の基準値が記載してあるが、その下にある表のNo.1からNo.27までの具体的な事業に関して、全部見直さなければならないと思うのだが、これまでの指標はこの成果指標の数値が下がっていてもほとんどの個別事業は現状維持が多かった。しかし、成果指標一つをもって、27事業全てを図れないというのは理解できる。県の計画などと連動しているということだったら変更しづらいというのも説明をいただいてよくわかったが、今回改善していただいたのは、この具体的な事業について、事業課が課題の分析などを行い、我々委員が見た上で、もっと頑張ったほうが良いのではないかというのが、資料1-4裏面の実施状況の総括などに、委員の意見が反映していただけたという変更だと思う。

私たち委員が言い続けてきた成果指標が下がっているのに事業の見直しがないのはおかしい、という指摘をしてきたことで、検討をやっとしてくださったなという思いで、これでやってみたいと思っている。

(朝比奈委員) 私も3、4年くらい前に、子ども・子育て会議に参加していたのだが、ここ数年別の委員が出ていたので、今永保委員がおっしゃったような今までの経過がよくわかっていなかった部分もあるのだが、この評価というところは、数字的な評価の部分は、例えば実施した数だとか人数などは出しやすいと思うが、質的な評価はどこで図られるのかというのが見えにくい気がする。そこが総括ということかもしれないが。

我々委員だけの意見ではなく、もう少しその質的な評価をどう図っていくかということに対して、例えばアンケートなどの調査方法も増えていくべきと思うがいかがか。

(事務局) 質の調査に対するアンケートについては、毎年実施することができず申し訳ない。ただ、来年度については中間年なので、中間年の評価という中でアンケートを実施させていただき、その結果についてもご報告させていただきたいと考えている。

(朝比奈委員) 例えば、「就学前の子どもに対する教育・保育の充実」の部分では、以前、この子ども・子育て会議が中心となって幼児教育・保育ガイドライン、質に対するガイドラインを策定したと思うのだが、それが取り上げられていない。質の評価ということであれば、そういうガイドラインが前に進んでいるのか、充実しているのかという成果指標が入ってきて当然なのではないかと思う。

(事務局) ガイドラインについては、支援事業計画作成時に並行して作業していた実

情があり、今回の計画には盛り込まれていないということである。当然中には質の話などがあるので、次回の中では盛り込んでいくものかと考えている。

(朝比奈委員) 取り挙げていただくと、意識が向きやすいのではないか。ガイドラインの記述がこの計画の中のどこにあるのかお示しいただきたい。

(事務局) 3ページの計画策定の背景と趣旨というところで、ガイドラインの策定について触れさせていただいている。

(片山会長) 見直しの範囲としてガイドラインをどう扱うかということも、今後検討していただくことになるのか。

(事務局) 中間年の見直しの中で盛り込めるようであれば盛り込んでいきたいと思う。

(片山会長) 保育者に対しての研修を行っている中で、ガイドラインを通して進めているのか、課題があればガイドラインと照らし合わせて扱っているのかなど、検証は必要であろうと考える。

(永保委員) ガイドラインの件だが、特に幼児教育・保育のことに関わる部分について、やはり質を高めていきたいということで、このガイドラインを作成した。計画の中では90ページに掲載している。計画とガイドラインを同時並行で作成しており、リンクするところまでいかず、コラム的に入れた経過がある。ガイドラインは数値で図れるものではないので、計画に落とし込んだ時に、既存の成果指標とマッチさせるのは難しいと考える。

幼児教育・保育ガイドラインが結構専門的な内容を含んでいて、保護者、地域、保育者、行政、それぞれにガイドラインを示しているもので、コアな話し合いの中で点検していくという組織作りが必要かと思う。この会議には様々な団体の方が参加されているが、詳細な部分もあり難しい場面もある。もう少し専門的な見地を有する方が集まっているところで点検を行うことが必要だと思う。実際に、このガイドラインも見直しをかけていくということが書かれているが、その見直しもこの子ども・子育て会議で扱うとなると、そもそもの計画と教育・保育に絞られた部分の評価を同時にやるのは難しいと思う。

(朝比奈委員) 今、保育を取り巻く状況で言うと、報道等で不適切な保育や心配なニュースをたくさん耳にされていると思う。数さえ確保できればいい、待機児さえなくせばいいというわけではなく、どういう保育がなされているのかという、質の部分に関してきちっと評価して、市民の皆さんが安心していただけるような内容を相模原市が作っていくんだということを、示していく必要があると思う。その時に、我々はどういうことを大事にしながら保育をしているのか、点検したり、研修を受けたりなどはこのガイドラインが示しているところである。

先ほど永保委員がおっしゃっていたとおり、専門的なワーキングチームのような、評価できるチームがあっても良いかと思う。

(片山会長) 子ども・子育て会議が扱っているのは、この計画にあるように、子どもを取り巻く様々な環境が、子どもにとって最善のものをという思いで、委員の皆様にはご自分の立場を通しての意見を遠慮なく出してほしい。今、保育の質ということで話が出たが、その保育の質が色々と繋がっていくというような説明も賜ったので、そのような理解で向き合っていただければと思う。

(事務局) 様々なご意見をいただき、市の方で検討させていただき、またご相談させていただければと思う。

(西谷委員) 私は地域から選出されているので、教育や保育、幼稚園などはあまりわからないが、地域の中で現場を見ながらやっているような感じであるが、そちらの専門と現場の方と連携がなされていない。私たちは、みらい子育てネットということで、全体のネットを作ろうと思って始めたのだが、できるだけ色々な所で同じようなことはやっているが、全体をまとめるような専門性があったほうがいいと思う。

実施状況の評価欄では、コロナの状況があり、現場が全く動いていないところもある。2年近く動いていないところもある中で、どういう考えになるのか伺いたい。実施していないので評価のしようがないなどあると思うが、どう動くかなどを考えたのか、そういう評価もあると思う。コロナのためできなかった、やらなかっただとそれで終わってしまう。それで評価ということではなく、少し考えて結果を出してもらいたい。

(片山会長) 今回の支援事業計画の中には、当然、新型コロナに関しての項目はない。そこをどう評価するかが問題である。

(榎本局長) 各団体がコロナの状況によって、感染防止対策ということで、長期的に休んだり、事業を行わなかったりという事情は様々だと思う。そうした状況を調査させてもらった上で、評価をしていく必要があると思うので、そのやり方については検討させていただきたい。

(朝比奈委員) コロナに関しては、未曾有の事態であり、その時どう行動できたとか、やったのかやらなかったのかというのは、なかなか評価できることではない。次に同じようなことが起こった時にどう対応できるかということも含めての評価ではないかと思う。同じような状況の際にもう少し知見があれば、最低限でもやった方が良かったのではないかと、本当に全部中止するべきだったのかという議論もあると思う。

(西谷委員) 私たちは動きたくても動けなかった実情がある。市側から場所も借りられないが、消毒の仕方も大分わかってきて、注意してやるのでと言って、どうしてもやりたいのでやった時もあった。子どもたちもお母さん方も大変な状況にある。市側もどうしてやってはダメなのか、どうやったら出来るのか、そういう考

えを生み出せるような方策を持たなければいけないのではないかと思う。

(朝比奈委員) 保育園や幼稚園に来ているお子さんたちには受入先がある。しかし、子育て支援に関しては、どこかの繋がりも失ってしまった家庭が随分あったのではないかと思う。保育園や幼稚園に入っていれば色々な支援が受けられたり、繋がりを持っているのに、本来、支援が必要だから子育て支援の場所があるわけで、そこがすべて閉まっていた。子育てに悩んでいる方々が行ける場所がなくなってしまったことに関しては、すごく心が痛かった。

(片山会長) 小中学校等で登校できなかった時期があった。公共施設に関しては使用中止ということで、子育て支援の場への影響というのは大きかった。検証をやり始めている状況だと思うが、委員皆様の立場で課題などを出していただくことが、この会議の良さであると思う。

本日の議題の評価をどう変更するかということで、ご審議いただいているところではあるが、関連して、皆様それぞれの立場から、現在の状況やご意見を伺うこともこの会議としての必要な取り組みではと思っている。

(手塚委員) 公募委員として参加させていただいており、フルタイムで働きながら子育てをしている。コロナ禍で困ったことでは、コロナが流行り始めた頃に保育園に預けられなくなった時が一番困った。職業柄リモートでできる状況ではあるが、家で子どもの面倒を見ながら仕事をするのはすごく大変で、集中して仕事することがなかなか難しかった。その後、自粛をしながらも預けて大丈夫ということにはなったものの、預けたほうが働きやすい気持ちはあるが、預けにくい雰囲気があり、そのあたりの調整が難しかった。

(田川委員) ひとり親家庭福祉協議会の代表として参加している。ひとり親ということで、団体の中にはシングルマザーもいる。今までは季節ごとにイベント等も開催していたが、感染リスクを考えて、手を差し伸べたくても何もできない状況となっている。クリスマス会も毎年行っているができない可能性がある。去年は考えた結果、人数分の図書カードをプレゼントとし、お母さん方から喜びの声をいただいですごくよかったと思った。

私自身働いており、子どもを家に1人で留守番させている時に誰か来たらどうしようとか、今まで学童にお世話になっていたのどうしようとか、皆さんの悩みも理解でき、ひとり親家庭の代表として色々な気持ちがわかるので、何もできない状況に今も悩んでいる。来年度から動けたらいいねと事務局内で話しているが、今後コロナがどういう状況になるかで、シングルマザーに手を差し伸べたいけれど、思うように動けない現状がある。

(山崎委員) 相模原市の中学校長会の代表として参加している。中学校では去年の休校明けから段階的に分散登校を行い、今は通常通りにほぼ近い形にはなっている。

ただ、やはり行事が難しく、中学校の場合だと大体市のホール等を借りて合唱コンクールや、合唱祭などを行うが、いずれもホールを使用することが難しく、人数制限などもあり、昨年、今年と2年間開催することができないでいる。少しでも子どもたちの成果を見せる場として、今、少し落ち着いてきたので校内で開催しようかという話をしている。

体育祭に関しては、保護者に応援に来ていただくと密になってしまうので、保護者の方には参加をご遠慮いただいて、昼食を食べず半日日程で、昨年、今年と開催した。

昨年は技術的に難しかったが、今年は校舎にカメラを設置して動画配信をしたり、オンラインで授業を行ったりと、この1年間で教職員のそういった技術は上がった。ただ、オンライン授業も試しに行ってみたが、気が付いたことは、授業はできないことはないが、学校は授業ができればいいだけでなく、集まってきて対面で顔を合わせる必要があることを教員は再認識した。そういう中では感染対策を図りながら、どうやって子どもたち同士や大人と子どもとのコミュニケーションをとるかということが、今学校内での課題になっている。できないではなく、何とか工夫してできることはないかと考えている。

(三浦委員) 相模原市に認定保育室という制度があり、そこの集まりとなっている。

コロナ禍では、仕事をしながら子育てをされている方が、小中学校の休校により働けない方がおり調整しながら業務を行ったり、行事もかなり中止になったりと、感染リスクを抑えるということで密を避ける必要があるが、どうしたら密を避けられるかということ職員間で話し合いながら取り組んできた。

あと、登園自粛になった際に、認可保育園には休んだ分保育料を返金する制度があったが、認定保育室や認可外保育園等はその制度は当初ないと言われた。結局、市の方で返金の制度を作っていただき、登園自粛された保護者の方に保育料を減額した分を返金するという制度ができたので、そちらの方は助かったが、リモートでも対面でも人と人との関わり合いはやはり大切なんだと感じたので、今後の保育の中で活かしていけたらと思う。

(松浦委員) 私は労働組合の連合で、相模原の組織である相模原地域連合から参加している。

コロナ禍の影響に関しては、仕事を失った方や、働き方が大きく変わったという方が多くいるということは、報道や統計などでも明らかになっている。そうやって仕事を失ってしまった方たちは、当然収入の面でも生活困窮という事態に陥ったりということもあり得るので、我々労働組合としてしっかり雇用の確保及び継続ということにも取り組んでかなければならないと思う。

先ほど手塚委員がおっしゃったような働き方が変わってきて、在宅勤務の導入

や自宅からオンラインで会議に参加するといったような働き方になってきた。今までは働いている保護者が子どもを預けて、仕事が終わったら迎えに行くというのが子育てのメインだったと思うが、これからは家の中に子どもがいて、子育てをしながら仕事もするという、多様な働き方や子育て環境の変化が出てくると思うので、そういったところでどう支援していくかということをお我々の団体として取り組まなければならないと思うし、様々な関係団体と連携を取っていききたいと考えている。

(本田委員) 公募委員として参加している。子どもに重度の知的障害あり、普段は保育園に預けているが、コロナ禍で子どもが預けられなくなってしまったのだが、自分がリモートができない仕事であったため、家族がリモートワークをしながら子どもを見てくれた。ただ、仕事をしながら1人で重度の知的障害児を見ろというのはやはり限界がきてしまったので、保育園に相談して本来であればリモートワークだと自宅で保育可能ということで預けられないのだが、相談に乗っていたとき、預けさせていただいて私も仕事を続けられた。

障害がある子どもと24時間四六時中、どこにも相談できず過ごすというのは、1か月程度でも初めての経験で、非常に苦しかったなということもあり、同じく障害児を抱えている他の保護者の方たちも非常に苦しい思いをした。中には声を荒げてしまったりということも聞くので、支援者との繋がりが絶たれてしまうということが急激に起きたと思う。コロナに関わらずそういった支援者と繋がれない、どことも繋がれないというのは非常に苦しいことだなというのを感じた。

私の仕事の話になるが、精神科のクリニックでソーシャルワーカーをしているが、7月以降初診で当院にかかれる患者さんが、非常に若年化したなという印象がある。大学生とか新入社員が多いという感じ。そういう年代の方は人との繋がりをあまり求めていないのかなと先入観を持っていたのだが、よくよく話を聞くと大学に行けない、友達と会えない、リモートで仕事はしているけれども相談がすぐにできないなど、やはり煮詰まってしまったという話を聞いて、対面で繋がるというのはとても大事なんだというのを仕事上でも感じた。

先ほど、朝比奈委員がおっしゃった施策の評価が数値だけではなく、これらの施策によって良かったと思えたり、助かったなと思う市民の方や子どもたちがどのくらいいたのか、難しいと思うがそういった質の評価を行っていただきたいと思う。

(布施委員) 今年度から委員をやらせていただいている。私どものコロナ禍でのミッションとして、事業継続、雇用維持をどう進めるかというところを大前提にやってきた。政令市の商工会議所の中では、職員数もそんなに多くはない状況の中で、我々も医療とは違うが休みは取らず頑張ってきたソーシャルワーカーの一環では

ないかと思っている。

そういう自負を持ちながら、少しでも事業継続していただけるために、国や県の支援策、そしてこの相模原市の支援策を色々活用して、事業継続を推進させていただいたのかなと思う。どこまで満足に行ったかというところは、先ほど来からの検証という部分が入ってくると思う。

今日、この会議の前に永年勤続の方を対象とした表彰式をやらせていただいた。企業の経営者の方々が中心の設定だが、従業員の方々にももちろん目を向けて事業に取り組んでいきたいと思う。

(藤井委員) 学童保育という言葉は今では馴染みの言葉になったが、まだ学童保育って何と聞かれるような前から、自宅を開放して始めた。ここ2年間は保育園も同様だが学校は閉めても学童は開けるというスタンスで、指導員の確保がすごく大変だった。決まった雇用契約の中で、1日4時間、週3、4日と約束している方に、無理をお願いしたりということ調整し続けてきた。

子育てと就労支援という二本立てでやっている学童であるが、まず子育てでは、様々行事を体験してもらうことで子どもが育っていくという思いでやっていた。なので、行事が一切できなくなったというのがすごく痛手で、何かできないかと思って動いたこともいくつかあった。バスで子どもたちを相模大野まで連れて行き、映画を観せてあげることはできるかなと考え、受け入れる側も人数を3分の1にして来て下さい、と言われたので出かけたなら、その道中のバスの乗り換えで子ども20人くらいを乗せようとしたら、乗り合わせた方から「この子たちを乗せるつもりか。」などと言われ、1台バスを見送った。帰りも同じようなことがあり、世の中こうなってしまったのだと思った。子どもに何かしようと思っても、何もできないのだなということ悲しく思ったときもあった。

リモートワークの保護者が増えるなど、保護者の働き方も多様になったので、そういうことのチェックや受け入れ体制を取ることが今までにない労力がかかっている。それから、卒業生がいつもボランティアで手伝いに来てくれていたが、全く来られない状況になり、その子たちは学童と関わることで救われている部分もあるので、行き場所がなくなってしまったことが大きかった

また、日常的に指導員が清掃や消毒、検温作業や密にならないように追われ、子どもたちはそれなりに楽しんでいたと思うが、体力的、精神的にみんな頑張ったなと思っている。

国や市から補助金をいただき、何とかやりくりをしてきたが、やっと乗り切れている状況なので、これからも市からの援助や努力をいただき生活できるよう持っていきたいと思っている。

最後に、「さがみはら子どもの権利の日」が11月20日と決まっているが、現

場の中で浸透していないのではないかというイメージがある。今年も11月20日が土曜日と重なっていることもあるが、子どもの人権教育や権利のことなど、もう少しきめ細かにやってあげられる学校であって欲しいと思う。市が制定したのだから、もう少し大きい声で言っていただきたいと思います。

(馬場委員) 私は民生委員児童委員の代表として参加させていただいており、主任児童委員の立場で、子ども専門の民生委員ということでやらせてもらっている。

子育て支援だと、例えば登下校時のボランティアや地域の中で子どもに関わる施設には随時顔を出させてさせていただいており、例えば児童館やこどもセンターなどには色々なお子さんや保護者も見えるので、極力顔をつないでいる。

コロナ禍になり、去年は児童館が閉所していた時期もあったが、今年度は緊急事態宣言時も開所されていた。児童館の職員から話があったのは、コロナ禍になってから乳児と保護者が来所される人数が少し増えたような感じがするということであった。児童館の場合は乳児室等は特にないので、1時に児童館が開所して、2時、3時になると小学生が来るが、その中で乳児が走り回ると支援員たちがとても神経を使って子どもの見守りをしていたというもの。こどもセンターだと午前中から開所しているので、午前中に乳児が来て午後はお昼寝で帰るが、こどもセンターが遠く、児童館が近くにある方にとしてみるとそれができなかったのがちょっと残念だったのかなと思う。児童館も地域の子どもを育てる拠点としての役割というのがあったのではないかというのは感じた。

あと、保護者が子どもに対する言動などで、児童相談所に繋がるケースが多かったように感じた。

(永保委員) 受け入れる立場の話をさせてもらおうと、私は幼稚園・認定こども園協会の代表だが、幼稚園は閉まっておらずコロナの間も開園しており受け入れをしていた。先生たちも最初のうちは怖かったと思う。今でも怖いと思うが、感覚が麻痺してきている感じがする。消毒やマスクをしなくてはならないというのは、先生たちはあまり苦に思っておらず、自分が感染してしまったら間違いなく子どもに移してしまう、その責任感に耐えられないという思いですごく辛かった。だから、できれば来ないでほしいと思っていた。どうしても密は避けられないので、小さい子はマスクをしてもはずしたり落としたりしてしまったり、落としたマスクはどうしようかなど、怖い思いをしていた。行政からはマスクがなかった時期から少し遅れてマスクや消毒液などの物資は結構いただいたが、一番辛かった時の先生の心の支えがなかった。

雇用する立場からすれば、例えば少しでも症状が出ている子どもは登園を遠慮してくださいと毅然とお断りせざるを得ないが、預ける立場からすれば、今日預かってもらわないと困るという状況だったかもしれない。しかし、私たちは先生

も守らなければならない立場であるという状況であった。

コロナ禍の中で、子育て支援の場所がなかったというのは、私たちも聞いており、こちらで園庭開放や場所を貸してあげようなど思った時期もあったが、恐らくそれでは在園時の保護者が嫌がるだろうとか、そういう思いもした。

点検・評価の話で言えば、成果指標の評価で、令和2年度、3年度に関してはコロナに対する評価のウエイトが大きくなるかと思う。先ほど西谷委員がおっしゃったように、できなかったではなく、次、この状況になった時に何ができるのかというのを中心に考えなければいけないと思う。そこでお願いなのだが、それぞれ事業の担当する課がわかれていると思うが、この評価を行う際には、関係団体に具体的にどうすればもっと良かったのかというのを聞いていただき、それがポストコロナの時に即応できる体制に繋げることが大事かと思うので、評価を行う際はぜひ各団体に聞いていただきたいと思う。

(朝比奈委員) 今回コロナを経験して、去年は特定の職業の方しか保育園に登園できない、登園自粛のような状況の際には、登園する園児が減った。普段100名近くいる園児が毎日20名ほどになった時に、最初は仕方ない、我慢しなければならないと思ったが、しばらくして何とも言い難い心持になってきた。登園している子どもは伸び伸びと楽しそうに、普段通り遊んでいる。でも、ここに来られない子どもたちが家庭にいる状況があり、家庭にいることがすべて不幸ではないと思うが、どうしているのかな、登園している子どもたちと同じように一緒に遊びたいんじゃないかなとすごく思った。

その後、自粛が解除になり、それ以降の緊急事態宣言時には日常通りであったが、そこで今度気になったのが、市内の保育園は子育て広場という事業として園庭開放などを行っているが、緊急事態宣言時は閉めていた。今までいらっしやっていた方にお会いできなくなり、去年の9月1日に開けた時に、その日の内に「やっていますか」と電話がかかってくるなり、今回の緊急事態宣言が解除された時も待っていた方がいらっしやった。園児は通常通り過ごしていたが、その方たちは行き場がなかった。実際取りこぼしてしまっている状況をどのように評価や振り返りを行うかが気にかかる。

子どもの権利の話では、コロナ禍で感染防止対策は大事であるが、子どもたちが育つ権利がどう保障されていたのかと思う。最初の緊急事態宣言時は公園の遊具にテープが巻かれて使えず、遊ぶことができなかった。図書館も閉館している状況で、子どもたちが育つ権利が保障されなかったことは、できなかったことだけの評価ではなく、それによって失われたかもしれないものの評価もしないといけない。報道にもあったが、鬱の増加や子どもの自殺率も過去最高に達し、コロナが原因かどうかわからないが、色々なことが起こっている中で、私たち大人が

危機的なことが起きた時に、子どもの権利を大事にしていたのかというところは、1度振り返って、次に同じようなことが起きた時に取りこぼさないように、また、細かく目が配れるように、或いはその中でもできることはないかを模索し実現していくような評価というものを行っていただきたいと思う。

(西谷委員) 先ほどから出ている子育て広場といっても、どこが主催しているかによって違いがある。私は市のこどもセンターでやっている子育て広場に関係しているが、初めの緊急事態宣言時には全部閉鎖していた。その後の緊急事態宣言時には開いたが、そのことに対して様々な意見が出る中で、やる側も消毒など利用者にお知らせしながら気を付けてやってきた。また、保護者にも気を付けてもらうよう声がけしながらやったところもあった。市の方もどういう形であればできるのかを聞いてやったところもあるので、そこは評価してあげて欲しいと思う。

市で行っている子育て広場に、みらい子育てネットとして講座を出しているが、社会福祉協議会の方が全面的に事業を中止してしまったのが困った。こどもセンターで行う親子サロンなどもやっていない。私たちは子どもたちの講座と同時に、お母さんたちのケアも行っている。障害をお持ちのお母さんたちは大変で、例えば8月は学校に行っている子どもたちも休みだから、自分も休んで平気だと、どうにか落ち着いていた。しかし、9月は子どもたちが学校に行っているのに行けないというお子さんをお持ちのお母さんが相談する場がなくなってしまった。どうしても相談したいという話があり、最終的に場所をお借りすることができ、短い時間の中でも、お母さんたちが少しでも気が楽になったと言って帰って行った。どういう形だったらできるのかを考えなければいけない。

(園田副会長) 計画全体の評価と方法という視点で、皆様方の意見を踏まえた上で話をさせていただきたい。

点検評価を行うにあたっては、まず分析をしなければいけない。その分析については、朝比奈委員や他の委員からも出ているが、量的な分析と質的な分析がある。アンケートをとったり色々な方法があるが、中間評価の際にアンケートを実施するという事だと思う。

例えば、コロナで困ったことがありますかとの設問に、あると答える人が90%、ない人が10%だった。これは量的な話で、では何に困ったか。仕事を失った、給料が減った、働き方が変わって困った、ストレスを抱えたなど、それらもパーセントの表記になる。これも量である。アンケートをとると、量的なものに触れやすい傾向がある。今、この会議の中で質がとても大切であるという話があるから、アンケートをとったら質が分析できるということではなく、やはり量に偏りがちになるということを考えて時に、では質をどうやって担保すればよいのかと考えたら、当事者の意見がどこまで反映されるかということになると思う。

今、相模原市がこの会議だけではなくいろいろな計画を実行していく上で、評価をしなければならない場面がたくさんあると思う。その評価を行うにあたって分析をする方法として、相模原市がどういう方法で分析をかけて、どういう方針で評価をするかということを確認にさせていただく必要があるのかと思う。

その一つの方法として量はアンケートで取りやすい。例えば10箇所整備する、8箇所だった、2箇所足りなかった、とわかりやすいが、そこに当事者の意見が入ってくると、今、この場でも勉強になったが、手塚委員など子育てをしている当事者の意見が出てくる。今度は事業者として、事業者はこんな苦労があるという意見が出てくる。それが混ざり合う、そこで客観的な実態が見えてきて分析ができるということが出てくると思う。

そういった意味では、ここは色々な立場の方々が委員になって、その意見を吸い上げてきているとは言えども、全市民の意見をあまねく背負ってきているかというとなかなかそうはいかないという側面もあるので、市民のウェルビーイングのためにこの会議があるのだとしたら、その市民の声をどう吸い上げて当事者の意見をどう反映させるかというのは、今の支援事業計画にしても、どんな計画にしても、当事者の意見や考えがない計画は恐らくないと思うので、一つの方針としてあってもいいのかなと思った。

もう一つ必要な視点が、量で拾われない少数意見である。何人かしかおらず、より少数意見だけれども重要な意見がある。それをどう拾い上げるかも質である。一つの例を申し上げますと、私、相模原市の児童相談所のことは話ができないが、知っている児童相談所では、コロナにより一時保護所が満杯で、職員が倒れそうであった。人手が足りず、休みでも呼び出されたり、そこでうちの大学の学生にアルバイトを紹介してくれないかと話があり、夏休みは特に大変だったらしい。相模原市にも児童養護施設があるが、少数の意見は声として浮かび上がってこないけれど、重要な意見をどう吸い上げるかという仕組みについては、福祉や市民のウェルビーイングを考えるのであれば必要な手続きだと思う。

もう1点、資料1-4で実施状況の評価として現状維持という評価がある。評価を行い次の計画に進むときには、課題を抽出しなければいけない。再評価の際に課題は達成したけれど、新たな課題が発生することがある。そうなると、今後の課題・方向性等の欄のボリュームが大きくなるのではないかと思う。課題の抽出ができないと分析がかけられないので、ただ単に現状維持ということではなくて、この課題をどう抽出して、きちんとそれを踏まえた上で次に進むとしているかということが大事だと思う。

私の意見としては、皆様方の意見を質ということについてどう考えて、どう分析して、次の計画にどう活かすのかということと、その中に少数意見があるとい

うこと。そして、再評価するときに今ある課題或いは新たに発生した課題、それらをどう吸い上げて整理するか。パブリックコメントというものがあるが、これはできたものに対してどうコメントするかという話なので、そうではなく、評価のプロセスの中で、そういう声をどう吸い上げるかという仕組み作りを考えていけば、評価、計画に反映できるのではないかというのを、当事者である皆様方の意見を聞かせていただき考えさせていただいた。

(手塚委員) この会議の中で当事者の意見反映ができることについてはとても良いことだと思うが、当事者の意見を評価のプロセスの中に吸い上げるにはどういった方法があるのか伺いたい。

(園田副会長) アンケートで配れるものであれば、イエスカノーかではなく自由記述という方法があるが、自由記述にすると分析をかけるのが大変な作業になる。それを嫌がって大体イエスカノー、パーセントで表記できる傾向が強くなるが、本当に質の分析をかけるのであれば、自由記述にするか、そこに行ってインタビューをすることである。それは当事者が子どもなのか、子育て家庭なのかなど、どこに置くかがあるが、例えば先ほど話した児相の職員も、当事者性がもしかしたらあるかもしれないので、そういう所に行き、困っていることを聞いた場合でも、全て信頼性がある情報で、妥当性がある情報ということではなない。それをどう分析するかは、こちら側の問題になるが、自由に言える方法があると良い。

4 その他

(1) 令和3年度研修内容検討会について

(朝比奈委員) この研修は保育の質ということに関してすごく大事な部分だと思う。計画の中でも「子どもに要する人材の確保と研修の充実」や「就学前の子どもに対する教育・保育の充実」という記載はあるが、先ほど来、質の評価が難しいという話が出ているが、どうすれば充実した研修ができるのか、研修を受けたことによりどう現場が変わったか、保育者の学びに繋がっていったかなどがきちんと評価されるということが、保育の質の評価に繋がっていくことだと思う。ぜひ継続してやっていただきたいと思うのと、意見を参考に次の研修に活かすということであれば、どう活かしていくかということ、この子ども・子育て会議で検討して、実際どう効果があり、また分析していくのかということもあわせて考えていくと、施策の評価にも直接結びついていくものだと思うので、ぜひ行っていただきたい。

検討会についても、年1回ではなく、複数回行ってさらに高めていき、会議に報告されるような形にしてもらいたい。

5 閉会

相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
1 ◎ 片 山 知 子	元 和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
2 朝 比 奈 太 郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出 席
3 ○ 園 田 巖	東京都市大学人間科学部准教授	出 席
4 田 川 継 世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出 席
5 手 塚 美 咲	公募市民	出 席
6 永 保 貴 章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	出 席
7 西 谷 八千代	みらい子育てネット さがみはら連絡協議会	出 席
8 馬 場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
9 藤 井 春 美	相模原市学童保育連絡協議会	出 席
10 布 施 昭 愛	相模原商工会議所	出 席
11 本 田 恵	公募市民	出 席
12 松 浦 千鶴子	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	出 席
13 松 原 充 子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	欠 席
14 三 浦 友 則	相模原保育室連絡協議会	出 席
15 山 崎 真 理	相模原市立中学校長会	出 席

◎ 会長 ○ 副会長